

26HP3-6

寛解導入療法終了直後に白血病細胞浸潤を伴う両側漿液性網膜剥離を来した T 細胞性急性リンパ性白血病の 1 例

長谷川 大輔¹⁾、真部 淳¹⁾、小川 千登世¹⁾、吉田 健一¹⁾、有馬 慶太郎¹⁾、高橋 宏佳¹⁾、田草川 彩子¹⁾、加藤 格²⁾、越前 成旭³⁾、大越 貴志子³⁾、細谷 亮太¹⁾

聖路加国際病院 小児科¹⁾、京都大学医学部 小児科²⁾、聖路加国際病院 眼科³⁾

【症例】発熱を主訴に近医を受診した際に、白血球増多を指摘された 4 歳の男児。初診時血液検査は WBC 36.6 万/ μ l(芽球 82.4%)、Hb 12.6g/dl、PLT 7.7 万/ μ l。骨髓有核細胞数は測定不能で、MPO 陰性芽球が 81% を占めた。表面マーカーは CD3 陰性だったが、CD2、CD5、CD7 及び細胞質内 CD3 と TdT が陽性であった。核型は正常で、SIL/TAL1 融合遺伝子陽性であった。以上より T 細胞性急性リンパ性白血病 (T-ALL) と診断し、プレドニゾン内服を開始したが、白血球数は 50 万/ μ l まで増加し、day3 に白血病細胞浸潤による呼吸不全を来し 6 日間の人工呼吸管理を要した。day4 から化学療法を繰り返して開始したところ白血球数は徐々に低下し、全身状態も改善したが、day8 の髄液検査にて芽球を 26/ μ l 認め、中枢神経浸潤が確認された。その後の治療は順調に行われ、day30 の骨髓では芽球は 1.7% まで減少しており、day42 にプレドニゾンの投与を終了した。day49 に視力が手動弁まで突然低下し、眼底及び超音波所見より両側の漿液性網膜剥離と診断した。day50 に全身麻酔下にて左網膜下液を採取したところ芽球の浸潤を認めた。ウイルス学的検索よりヘルペス属ウイルスの感染は否定的であった。網膜剥離発症時の骨髓および髄液では芽球の増加を認めなかったが、MRI で両側視神経の肥大を認めた。ステロイドパルス療法と両側眼球への 10Gy の放射線照射を行ったところ、視力は徐々に回復し、眼底及び超音波所見上も網膜剥離は消失した。その後、強化療法 3 コース施行後に左顔面神経麻痺を来し、骨髓中枢神経同時再発と診断した。この時点では視神経乳頭浮腫と血管蛇行を認めたが、網膜剥離の再発はなかった。【考察】白血病の治療経過中に眼科的異常所見を認めることはしばしばあるが、漿液性網膜剥離は数例の報告があるのみで、本症例のように治療中に生じた例はこれまでに報告がない。白血病細胞浸潤を伴う網膜剥離の発症機序については明らかではないが、白血球著増例や中枢神経白血病例では特に、積極的な眼科的検索が重要であると考えられる。

26HP3-7

尿路結石による急性腎不全を契機に発見された ALL の 1 例

宮越 千智、原田 明佳、神田 健志、宇佐美 郁哉、春田 恒和

神戸市立中央市民病院 小児科

【背景】血液腫瘍疾患において、腫瘍崩壊により高尿酸血症および腎機能障害を来した例は散見される。しかしそれらは、治療開始後にみられる例が殆どであり、発症時にみられる例は少ない。今回、尿路結石による急性腎不全で発症した ALL 例を経験したので報告する。【症例】症例は 1 歳 6 か月男児。生来著患なし。父方叔父に尿路結石があるが詳細は不明。入院約 10 日前から嘔吐、下痢、発熱がみられていたが、抗菌薬、整腸剤の内服により軽快傾向であった。入院 2 日前から再び下痢、発熱、間欠的啼泣がみられたため、近医を受診し、血液検査で貧血、腎機能障害を認めためて当院紹介受診となった。入院時、顔色不良、血圧 130/78mmHg、脈拍 128bpm、血液検査で WBC 3600/ μ L、Hb 6.7g/dL、Plt 12.4 万/ μ L、BUN 38mg/dL、Cr 2.3mg/dL、UA 14.5mg/dL と、汎血球減少、腎機能障害、高尿酸血症を認めた。血中および尿中尿酸高値であること、腹部エコーにて両側尿路結石および水腎症を認めたことから、両側尿酸結石による腎後性腎不全と診断した。緊急両側腎造設術および尿アルカリ化にて、尿路結石は消失し、腎機能障害は改善した。入院 6 日目の骨髓検査で芽球を 30% 認め、IgH 再構成が陽性であったため、ALL と診断した。尿路結石は腫瘍崩壊による高尿酸血症により生じたものと考えられた。しかし、入院 8 日目の骨髓検査では芽球が 15% に減少し、汎血球減少も WBC 約 7000/ μ L、Hb 約 11g/dL、Plt 約 30 万/ μ L と改善傾向であったため、化学療法は行わず外来で経過観察していた。発症から約 2 か月後、再び汎血球減少および末梢血中の芽球出現を認め、骨髓検査にて芽球 99% であったため、化学療法を開始した。治療経過中は、高尿酸血症は認めていない。【結語】尿路結石による急性腎不全を契機に発症した ALL 例を経験した。尿路結石は腫瘍崩壊から生じた尿酸結石と考えられた。発症時の腫瘍崩壊および ALL の自然軽快の原因として、ウイルス感染症の関与も考えられたが詳細は不明であった。興味深い症例と考えられたので文献的な考察を加えて報告する。